

平成28年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

平成28年度（平成27年7月1日～平成28年6月30日）実績報告より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（平成28年6月30日現在）	40種類	60種類	100種類
② 実施医療機関数（平成28年6月30日現在）	646施設※1	282施設※1	811施設※2
③ 全患者数	23,733人	1,052人	24,785人
④ 総金額（⑤+⑥）	約235.1億円	約16.5億円	約251.6億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約56.6億円	約10.8億円	約67.4億円
⑥ 先進医療費用の総額	約178.5億円	約5.7億円	約184.2億円
⑦ 1入院全医療費のうち先進医療分の割合（⑥／④）	75.9%	34.5%	73.2%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療（高度医療）の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

平成28年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

平成28年度（平成27年7月1日～平成28年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（平成27年6月30日現在）	61種類	47種類	108種類
② 新規承認技術数	2種類	17種類	19種類
③ 保険収載技術数	11種類	1種類	12種類
④ 実施取り下げ技術数	—	2種類※1	2種類※1
⑤ 削除技術数	12種類	1種類	13種類
⑥ 先進医療技術数（平成28年6月30日現在）	40種類	60種類	100種類
⑦ 総括報告書受理数	—	4種類	4種類

※1 保険収載された技術は除いている。

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	1入院全医療費のう ち先進医療及び旧 高度先進医療分の 割合
平成24年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※1	H23.7.1～H24.6.30 (12ヵ月)	102	553施設	14,479人	約146億円	約46億円	約100億円	68.5%
平成25年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	H24.7.1～H25.6.30 (12ヵ月)	107	604施設	20,665人	約204億円	約71億円	約133億円	65.3%
平成26年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※2	H25.7.1～H26.6.30 (12ヵ月)	95	571施設	23,925人	約247億円	約73億円	約174億円	70.5%
平成27年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	H26.7.1～H27.6.30 (12ヵ月)	108	786施設	28,153人	約295億円	約90億円	約205億円	69.5%
平成28年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※3	H27.7.1～H28.6.30 (12ヵ月)	100	811施設	24,785人	約252億円	約67億円	約184億円	73.2%

※1 平成24年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 平成26年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※3 平成28年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

平成28年6月30日時点における先進医療Aに係る費用

平成28年度実績報告(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
1	高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	平17. 10. 1	120,214,410	43,645,000	11.1	145	301,000	1
2	三次元形状解析による体表の形態的診断	平11. 9. 1	103,774,680	1,294,200	13.0	70	18,489	2
3	陽子線治療	平13. 7. 1	6,102,963,361	5,564,204,900	8.8	2,016	2,760,022	9
4	骨髄細胞移植による血管新生療法	平15. 7. 1	37,053,727	5,120,415	33.3	12	426,701	3
5	神経変性疾患の遺伝子診断	平15. 9. 1	10,512,117	536,300	8.0	26	20,627	5
6	重粒子線治療	平15. 11. 1	5,887,760,135	5,527,292,000	9.8	1,787	3,093,057	5
7	自家液体室素処理骨移植	平16. 11. 1	85,192,174	962,100	162.9	9	106,900	2
8	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	平16. 11. 1	530,024,111	4,451,165	54.6	118	37,722	12
9	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	平16. 12. 1	-	-	-	-	-	-
10	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	平16. 12. 1	7,088,110	1,976,720	11.4	8	247,090	1
11	泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	平17. 2. 1	15,032,633	6,456,400	10.4	16	403,525	4
12	末梢血幹細胞による血管再生治療	平17. 6. 1	671,055	298,220	12.0	1	298,220	1
13	末梢血単核球移植による血管再生治療	平17. 6. 1	7,975,335	1,196,800	46.0	4	299,200	2
14	定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	平19. 6. 1	1,133,130	114,650	2.9	8	14,331	2
15	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	平19. 10. 1	23,770,653	17,902,153	-	277	64,629	18
16	樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	平17. 2. 1	90,065,669	83,927,400	0.1	65	1,291,191	3
17	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	平8. 11. 1	34,045,231	27,412,500	1.1	81	338,426	1
18	EBウイルス感染症迅速診断(リアルタイムPCR法)	平20. 2. 1	1,158,027,442	3,688,035	44.6	234	15,761	6
19	多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	平20. 7. 1	7,071,658,548	6,366,925,510	1.2	11,478	554,707	459
20	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	平20. 7. 1	-	-	-	-	-	-
21	培養細胞によるライソゾーム病の診断	平20. 7. 1	-	-	-	-	-	-
22	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	平20. 8. 1	-	-	-	-	-	-
23	角膜ジストロフィーの遺伝子解析	平20. 12. 1	1,215,180	590,360	0.3	27	21,865	4
24	前眼部三次元画像解析	平23. 2. 1	316,629,944	24,676,298	0.4	6,739	3,662	86
25(1)	(1)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	平23. 7. 1	14,822,922	400,572	65.0	4	100,143	1
25(2)	(2)(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	平24. 4. 1	399,329,799	3,935,647	155.9	42	93,706	24
25(3)	(3)((2)に規定する保険医療機関から検体の採取以外の業務を受託する保険医療機関)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	平24. 4. 1	3,279,262	3,279,262	-	38	86,296	2

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
26	最小侵襲椎体椎間板搔爬洗浄術	平23. 7. 1	-	-	-	-	-	-
27	短腸症候群又は不可逆的な機能的な小腸不全に対する脳死ドナーからの小腸移植	平23. 8. 1	-	-	-	-	-	-
28	短腸症候群又は不可逆的な機能的な小腸不全に対する生体ドナーからの小腸部分移植	平23. 10. 1	-	-	-	-	-	-
29	MEN1遺伝子診断	平24. 9. 1	110,855	100,000	-	1	100,000	1
30	金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンをを用いた三ユニットブリッジ治療	平24. 12. 1	13,944,360	13,411,000	-	58	231,224	6
31	ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26. 1. 1	20,227,020	2,321,140	3.1	87	26,680	3
32	細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26. 1. 1	9,019,159	763,745	5.0	28	27,277	3
33	内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	平26. 1. 1	66,587,306	28,264,205	6.5	106	266,643	5
34	FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定	平26. 8. 1	426,960	58,200	12.0	1	58,200	1
35	Verigeneシステムを用いた敗血症の早期診断	平26. 8. 1	58,395,862	954,990	18.6	45	21,222	1
36	腹腔鏡下広汎子宮全摘術	平26. 12. 1	181,007,769	101,818,512	13.3	136	748,666	20
37	LDLアフェレシス療法	平27. 4. 1	9,903,976	4,598,850	25.3	7	656,979	4
38	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	平27. 5. 1	41,225,435	1,054,760	46.6	10	105,476	3
39	CYP2D6遺伝子多型検査	平27. 9. 1	4,191,432	4,141,942	-	7	591,706	1
40	MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	平28. 2. 1	7,963,731	4,081,100	2.4	37	110,300	1
合 計			22,435,243,493	17,851,855,051		23,728	752,354	702

※未実施により実績報告がないものは「-」としている。

平成28年6月30日時点における先進医療Bに係る費用

平成28年度実績報告(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
1	パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法(腹膜播種又は進行性胃がん)	平21. 12. 1	15,596,165	1,907,594	12.6	9	211,955	7
2	経カテーテル大動脈弁植込み術	平22. 4. 1	61,130,258	38,176,000	27.0	8	4,772,000	1
3	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法(上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん)	平22. 5. 1	112,010,698	16,273,297	35.0	49	332,108	24
4	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法(ホルモン不応性前立腺がん)	平22. 6. 1	-	-	-	-	-	-
5	経胎盤的抗不整脈薬投与療法	平22. 7. 1	14,778,250	625,656	39.0	9	69,517	6
6	低出力体外衝撃波治療法	平22. 7. 1	7,008,180	2,660,364	12.0	9	295,596	4
7	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植	平22. 11. 1	2,177,478	1,380,120	33.0	1	1,380,120	1
8	術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法(原発性乳がん)	平23. 4. 1	60,077,538	42,116,792	0.1	83	507,431	37
9	急性心筋梗塞に対するエボエチンペータ投与療法	平23. 8. 1	-	-	-	-	-	-
10	培養骨髄細胞移植による骨延長術	平23. 11. 1	-	-	-	-	-	-
11	NKT細胞を用いた免疫療法(肺がん)	平24. 1. 1	635,969	599,500	-	1	599,500	1
12	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法(肺がん)	平24. 1. 1	214,448,670	119,909,039	27.5	102	1,175,579	42
13	ゾレドロン酸誘導γδT細胞を用いた免疫療法(非小細胞肺がん)	平24. 6. 1	9,021,570	8,360,000	-	5	1,672,000	1
14	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法	平24. 11. 1	9,603,682	4,953,316	23.0	7	707,617	6
15	重症心不全に対する免疫吸着療法	平24. 12. 1	9,743,244	3,827,000	30.0	4	956,750	1
16	NKT細胞を用いた免疫療法(頭頸部扁平上皮がん)	平25. 3. 1	1,939,662	1,825,000	-	5	365,000	1
17	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法	平25. 6. 1	1,637,016	874,000	39.0	1	874,000	1
18	自己口腔粘膜及び羊膜を用いた培養上皮細胞シートの移植術(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡又は熱・化学腐食に起因する難治性の角結膜疾患)	平25. 7. 1	30,920,264	21,357,000	37.0	9	2,373,000	1
19	術前のホルモン療法及びゾレドロン酸投与の併用療法(閉経後のホルモン感受性の乳がん)	平25. 7. 1	675,031	425,268	-	13	32,713	5
20	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法(早期乳がん)	平25. 8. 1	46,903,974	14,964,836	4.9	98	152,702	8
21	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法(成人T細胞白血病リンパ腫)	平25. 8. 1	10,787,133	5,492,483	7.4	13	422,499	11

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
22	冠動脈又は末梢動脈に対するカテーテル治療におけるリーナルガードを用いた造影剤腎症の発症抑制療法	平25. 10. 1	17,422,646	420,000	11.2	15	28,000	2
23	トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法(特発性肺線維症)	平26. 1. 1	6,111,133	1,235,000	25.7	3	411,667	2
24	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検(早期胃がん)	平26. 1. 1	3,621,396	105,914	22.0	2	52,957	2
25	オクトレオチド皮下注射療法(先天性高インスリン血症)	平26. 1. 1	10,845,882	1,666,672	185.0	1	1,666,672	1
26	アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法(急性脳梗塞)	平26. 5. 1	80,068,797	5,466,271	32.2	46	118,832	20
27	S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法(腹膜播種を伴う初発の胃がん)	平26. 5. 1	13,984,452	3,008,378	9.6	8	376,047	4
28	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法(初発の中脳神経系原発悪性リンパ腫)	平26. 6. 1	25,842,587	7,901,011	26.3	18	438,945	9
29	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断	平26. 6. 1	50,560,427	3,229,067	26.2	46	70,197	11
30	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	平26. 8. 1	3,567,452	2,670,402	0.2	26	102,708	5
31	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ビタバスタテンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	平26. 8. 1	1,246,910	49,000	35.0	1	49,000	1
32	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法(根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん)	平26. 8. 1	35,133,807	3,880,076	9.5	35	110,859	9
33	NKT細胞を用いた免疫療法(非小細胞肺癌)	平26. 9. 1	20,939,586	18,482,082	3.5	16	1,155,130	8
34	ペペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病)	平26. 9. 1	2,911,304	2,205,700	14.0	1	2,205,700	1
35	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	平26. 10. 1	314,870,104	182,119,118	15.1	172	1,058,832	8
36	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法	平26. 11. 1	108,404,532	2,270,750	32.1	31	73,250	1
37	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断(頭頸部腫瘍)	平26. 12. 1	17,462,188	2,368,000	8.2	20	118,400	2
38	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法(切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん)	平26. 12. 1	-	-	-	-	-	-
39	上肢カッピングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術	平27. 1. 1	16,328,310	6,947,000	15.3	13	534,385	2
40	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法(特発性ネフローゼ症候群)	平27. 2. 1	22,498,411	4,704,235	7.5	20	235,212	8
41	内視鏡下手術用ロボットを用いた内視鏡下咽喉頭切除術	平27. 2. 1	24,247,281	13,050,030	20.4	12	1,087,503	3

整理番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	1件あたりの先進医療費用(円)	実施医療機関数(機関数)
42	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の併用療法(特発性ネフローゼ症候群)	平27.4.1	-	-	-	-	-	-
43	カペシタビン内服投与、シスプラチン静脈内投与及びドセタキセル腹腔内投与の併用療法(腹膜播種を伴う初発の胃癌)	平27.4.1	86,420,258	7,618,050	37.0	45	169,290	15
44	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法(非小細胞肺癌)	平27.6.1	153,021,102	8,629,665	16.7	70	123,281	10
45	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法	平27.7.1	2,102,287	261,937	37.0	1	261,937	1
46	LDLアフェレシス療法(閉塞性動脈硬化症)	平27.11.1	-	-	-	-	-	-
47	自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術	平28.1.1	5,661,642	1,020,000	33.0	1	1,020,000	1
48	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	平28.1.1	-	-	-	-	-	-
49	テモゾロミド用量強化療法(膠芽腫)	平28.1.1	-	-	-	-	-	-
50	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術(再発翼状片)	平28.1.1	277,736	251,336	-	1	251,336	1
51	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	平28.1.1	1,996,080	1,565,000	-	10	156,500	1
52	mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法(胃癌)	平28.1.1	5,909,172	1,462,630	20.8	4	365,658	1
53	131I-MIGを用いた内照射療法(難治性褐色細胞腫)	平28.2.1	5,345,980	2,681,500	6.6	5	536,300	1
54	FOLFIRINOX療法(胆道がん)	平28.2.1	730,030	91,710	10.0	1	91,710	1
55	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術	平28.4.1	-	-	-	-	-	-
56	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断(初発の神経膠腫が疑われるもの)	平28.4.1	724,836	274,000	5.5	2	137,000	1
57	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療(胸髄損傷)	平28.4.1	-	-	-	-	-	-
58	陽子線治療(肝細胞がん)	平28.6.1	-	-	-	-	-	-
59	重粒子線治療(肝細胞がん)	平28.6.1	-	-	-	-	-	-
60	アキシチニブ単剤投与療法(胆道がん)	平28.6.1	-	-	-	-	-	-
合 計			1,647,351,110	571,361,799		1,052	543,120	290

※未実施により実績報告がないものは「-」としている。

平成28年6月30日時点における先進医療Bの
 終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日	計画時患者数	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(平成27年7月～平成28年6月までの実績)(再掲)
1	パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法(腹膜播種又は進行性胃癌)	東京大学医学部附属病院	平21. 12. 1	平28. 11. 30	120	122	29	9
2	経カテーテル大動脈弁植込み術	大阪大学医学部附属病院	平22. 4. 1	平31. 3. 31	76	64	-	8
3	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法(上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん)	埼玉医科大学国際医療センター	平22. 5. 1	平31. 11. 30	654	645	49	49
4	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法(ホルモン不応性再燃前立腺がん)	久留米大学病院	平22. 6. 1	平30. 5. 31	91	69	5	-
5	経胎盤的抗不整脈薬投与療法	国立循環器病研究センター	平22. 7. 1	平33. 3. 31	50	46	8	9
6	低出力体外衝撃波治療法	東北大学病院	平22. 7. 1	平29. 3. 31	50	50	3	9
7	重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植	福島県立医科大学附属病院	平22. 11. 1	平31. 5. 20	20	6	5	1
8	術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法(原発性乳がん)	京都大学医学部附属病院	平23. 4. 1	平32. 7. 31	1860	1959	155	83
9	急性心筋梗塞に対するエボエチンベータ投与療法	大阪大学医学部附属病院	平23. 8. 1	平28. 8. 31	600	198	24	-
10	培養骨髄細胞移植による骨延長術	名古屋大学医学部附属病院	平23. 11. 1	平29. 3. 31	30	31	-	-
11	NKT細胞を用いた免疫療法(肺がん)	千葉大学医学部附属病院	平24. 1. 1	平29. 12. 31	35	35	-	1
12	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法(肺がん)	静岡県立静岡がんセンター	平24. 1. 1	平33. 12. 31	800	786	49	102
13	ゾレドロン酸誘導γδT細胞を用いた免疫療法(非小細胞肺癌)	東京大学医学部附属病院	平24. 6. 1	平31. 6. 30	85	17	1	4
14	コレステロール塞栓症に対する血液浄化療法	社団法人全国社会保険協会連合会 仙台社会保険病院	平24. 11. 1	平31. 12. 31	35	19	13	7
15	重症心不全に対する免疫吸着療法	北里大学 北里研究所病院	平24. 12. 1	平28. 3. 31	27	23	-	4
16	NKT細胞を用いた免疫療法(頭頸部扁平上皮がん)	千葉大学医学部附属病院	平25. 3. 1	平32. 2. 28	66	17	-	5
17	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法	山口大学医学部附属病院	平25. 6. 1	平31. 3. 31	34	3	-	1
18	自己口腔粘膜及び羊膜を用いた培養上皮細胞シートの移植術(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡又は熱・化学腐食に起因する難治性の角結膜疾患)	京都府立医科大学附属病院	平25. 7. 1	平29. 9. 30	30	21	1	9
19	術前のホルモン療法及びゾレドロン酸投与の併用療法(閉経後のホルモン感受性の乳がん)	京都大学医学部附属病院	平25. 7. 1	平28. 5. 31	75	52	9	13
20	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法(早期乳がん)	独立行政法人国立がん研究センター中央病院	平25. 8. 1	平35. 7. 31	372	233	7	98
21	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法(成人T細胞白血病リンパ腫)	独立行政法人国立がん研究センター東病院	平25. 8. 1	平30. 8. 1	74	26	35	13
22	冠動脈又は末梢動脈に対するカテーテル治療におけるリーナルガードを用いた造影剤腎症の発症抑制療法	国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院	平25. 10. 1	平28. 9. 30	60	58	1	15
23	トレミキシンを用いた吸着式血液浄化療法(特発性肺線維症)	日本医科大学付属病院	平26. 1. 1	平30. 6. 30	20	11	1	3
24	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検(早期胃癌)	慶應義塾大学病院	平26. 1. 1	平35. 5. 26	225	13	5	2
25	オクトレオチド皮下注射療法(先天性高インスリン血症)	大阪市立総合医療センター	平26. 1. 1	平29. 3. 31	7	5	28	1

告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日	計画時 患者数	登録症 例数	協力医療 機関数	年間実施件数 (平成27年7月～ 平成28年6月ま での実績) (再掲)
26	アルテプラゼ静脈内投与による血栓溶解療法 (急性脳梗塞)	国立循環器病研究センター	平26.5.1	平29.3.31	300	56	32	46
27	S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリ タキセル腹腔内投与の併用療法 (腹膜播種を伴う初発の胃がん)	東京大学医学部附属病院	平26.5.1	平29.1.31	50	60	24	8
28	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後の テモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びに テモゾロミド内服投与の維持療法 (初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫)	埼玉医科大学国際医療センター	平26.6.1	平32.5.31	130	24	24	18
29	FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 による不明熱の診断	国立国際医療研究センター病院	平26.6.1	平31.3.31	180	77	16	46
30	FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の 診断	独立行政法人 国立長寿医療研究 センター	平26.8.1	平30.3.31	190	39	8	26
31	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン 治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチン カルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の 大腿骨頭壊死発症抑制療法	九州大学病院	平26.8.1	平31.3.31	150	3	1	1
32	術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び 腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び 腹腔内投与の併用療法 (根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん)	近畿大学医学部附属病院	平26.8.1	平34.1.31	50	48	17	35
33	NKT細胞を用いた免疫療法(非小細胞肺がん)	独立行政法人 国立病院機構 名 古屋医療センター	平26.9.1	平32.3.31	56	33	14	16
34	ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 (閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病)	大阪大学医学部附属病院	平26.9.1	平31.8.31	6	2	5	1
35	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術	藤田保健衛生大学病院	平26.10.1	平32.3.31	330	254	8	172
36	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中の マイトマイシン腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル 腹腔内投与の併用療法	国立国際医療研究センター病院	平26.11.1	平36.7.31	75	56	-	31
37	110標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による 再発の診断(頭頸部腫瘍)	北海道大学病院	平26.12.1	平30.3.31	99	25	1	20
38	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及び トラスツズマブ静脈内投与の併用療法 (切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん)	静岡県立静岡がんセンター	平26.12.1	平32.12.31	130	-	16	-
39	上肢カッピングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術	大阪大学医学部附属病院	平27.1.1	平29.7.31	16	17	1	13
40	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸 モフェチル経口投与による寛解維持療法 (特発性ネフローゼ症候群)	神戸大学医学部附属病院	平27.2.1	平31.7.31	80	24	16	20
41	内視鏡下手術用ロボットを用いた内視鏡下咽喉頭切除術	京都大学医学部附属病院	平27.2.1	平29.5.30	20	14	2	12
42	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与の 併用療法(特発性ネフローゼ症候群)	国立成育医療研究センター	平27.4.1	平31.3.31	20	-	-	-
43	カベシタピン内服投与、シスプラチン静脈内投与及び ドセタキセル腹腔内投与の併用療法 (腹膜播種を伴う初発の胃がん)	東京大学医学部附属病院	平27.4.1	平29.3.31	50	50	25	45
44	周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法 (非小細胞肺がん)	大阪大学医学部附属病院	平27.6.1	平34.5.31	500	152	9	70
45	コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法	大阪大学医学部附属病院	平27.7.1	平30.6.30	35	-	-	1
46	LDLアフェレシス療法(閉塞性動脈硬化症)	横浜市立大学附属病院	平27.11.1	平32.10.31	35	-	-	-
47	自己心膜及び弁形成リングを用いた僧帽弁置換術	日本心臓血圧研究振興会附属神 原記念病院	平28.1.1	平33.12.31	25	1	-	1
48	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	名古屋大学医学部附属病院	平28.1.1	平34.7.31	83	1	-	-
49	テモゾロミド用量強化療法(膠芽腫)	杏林大学医学部附属病院	平28.1.1	平34.12.31	210	-	-	-
50	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 (再発翼状片)	富山大学附属病院	平28.1.1	平30.11.30	40	1	-	1

告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日	計画時 患者数	登録症 例数	協力医療 機関数	年間実施件数 (平成27年7月～ 平成28年6月ま での実績) (再掲)
51	多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	聖マリアンナ医科大学病院	平28. 1. 1	平30. 6. 30	23	-	2	10
52	mFOLFOX6及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 (胃がん)	東京大学医学部附属病院	平28. 1. 1	平31. 1. 1	34	4	-	4
53	131I-MIBGを用いた内照射療法(難治性褐色細胞腫)	金沢大学附属病院	平28. 2. 1	平29. 10. 31	20	6	3	5
54	FOLFIRINOX療法(胆道がん)	東京大学医学部附属病院	平28. 2. 1	平31. 7. 31	35	1	-	1
55	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術	東京医科大学病院	平28. 4. 1	平34. 9. 30	100	0	1	-
56	11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 (初発の神経膠腫が疑われるもの)	北海道大学病院	平28. 4. 1	平30. 3. 31	46	2	-	2
57	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療(胸髄損傷)	大阪大学医学部附属病院	平28. 4. 1	平31. 3. 31	10	-	-	-
58	陽子線治療(肝細胞がん)	北海道大学病院	平28. 6. 1	平34. 3. 31	180	-	-	-
59	重粒子線治療(肝細胞がん)	群馬大学医学部附属病院	平28. 6. 1	平35. 6. 1	130	-	-	-
60	アキシチニブ単剤投与療法(胆道がん)	杏林大学医学部附属病院	平28. 6. 1	平30. 12. 31	32	-	-	-

※ 記載のない先進医療技術については、既に先進医療から削除されたものであること。(平成28年6月30日時点)

※ 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(平成28年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

1年間(平成27年7月1日～平成28年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術(先進医療A)に係る医療機関の今後の対応方針等

先 - 2 - 2
29. 1. 12

告示番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての 医療機関の実績)	(参考) 直近5年間又は承認後の実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
9	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	神戸大学医学部附属病院	先進医療の実施者が、学内異動に伴い精神科から転出したことに伴って、実施のための受け入れ態勢が整わなくなったため。	新たな受け入れ態勢を整えて今後も実施継続が可能か否かを検討する予定である。	1件	7件
20	フェニルケトン尿症の遺伝子診断	大阪市立大学医学部附属病院	該当なし		3件	5件
21	培養細胞によるライソゾーム病の診断	大阪市立大学医学部附属病院	該当なし		2件	8件
22	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	島根大学医学部附属病院	当院における先進医療A「培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断」は平成20年4月より算定開始が承認されましたが、適応する患者の発生がなかったため、平成27年7月1日から平成28年6月30日における実績は0件となりました。	本院を受診せずに他院から検体だけが郵送付されるような症例は、できるだけ本院を受診していただくよう促す。	0件	2件
26	最小侵襲椎体椎間板脊椎揺爬洗浄術	北海道大学病院	当該医療技術に係る化膿性椎体椎間板炎に該当する患者はいたが、先進医療としての治療を希望されなかったため。	本技術の有用性について積極的に説明し、先進医療としての治療を勧めていく。	2件	15件
27	短腸症候群又は不可逆的な機能的腸管不全に対する脳死ドナーからの小腸移植(※)	東北大学病院	現在2例の小腸移植適応症例が脳死ドナーからの移植を待機しているが、適合する(ドナー、グラフトの状態などの良好な)ドナーは極めて少なく、移植の実施に至っていない。また平成28年4月からは先進医療暫定Aでの新規患者の組み入れができないため、小腸移植プログラムは緊急度の高い症例をのぞき停止している。緊急度の高い適応候補の症例も存在したが、適応評価準備中に死亡した。潜在的には、小腸移植が必要な症例も数多く存在することは判明しているが、医療技術として十分に普及しておらず、また患者、施設の負担も大きく、現在のところ実施件数の増加には至っていない。	腸管不全(短腸症、機能的腸管不全など)により、静脈栄養の必要な腸管不全症例は年間数百例ほど発症すると推測されている。小児の短腸症のうち残存腸管の比較的長い軽症のものなどは、順応により静脈栄養からの離脱が可能な場合もあるが、重症例の多くは静脈栄養からの離脱は困難で、長期あるいは生涯にわたる静脈栄養管理が必要である(不可逆的腸管不全)。栄養管理の進歩により、このような不可逆的腸管不全症例に対して長期の安定した静脈栄養管理も可能になりつつあるが、多くの場合、数ヶ月から十年以上の経過を経て、静脈栄養あるいは腸管不全そのものに関連した合併症(肝機能障害、カテーテル関連血流感染症、中心静脈ルートアクセス困難、代謝異常など)により、静脈栄養の維持、すなわち生命の維持が困難な状況、あるいは極めて生活の質の低い状況に陥る。小腸移植はこのような重症不可逆的腸管不全に対する根本的な治療法として期待されている。	0件	2件
		京都大学医学部附属病院	対象患者が全国で年間20例ほどとされており少ないため。平成27年7月1日から平成27年3月31日の期間に当院で対象患者の発生がなかったため。	先進医療Bへの移行のため、先進医療Aとしての実施は終了。	0件	0件

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての 医療機関の実績)	(参考) 直近5年間又は承認後の実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
28	短腸症候群又は不可逆的な機能的腸不全に対する生体ドナーからの小腸部分移植(※)	東北大学病院	当院では、脳死ドナーからの移植を第一選択とし、緊急度が高く脳死ドナーからの移植の待機が困難な症例、特に生体ドナーからの早期の移植を希望する症例以外は、脳死ドナーからの移植を待機している。平成28年4月からは先進医療暫定Aでの新規患者の組み入れができないため、小腸移植プログラムは緊急度の高い症例をのぞき停止している。緊急度の高い適応候補の症例も存在したが、適応評価準備中に死亡した。潜在的には、生体ドナーからの移植が必要な症例も数多く存在することは判明しているが、医療技術として十分に普及しておらず、また患者、施設の負担も大きく、現在のところ実施件数の増加には至っていない。	<p>腸管不全(短腸症、機能的腸管不全など)により、静脈栄養の必要な腸管不全症例は年間数百例ほど発症すると推測されている。小児の短腸症のうち残存腸管の比較的長い軽症のものなどは、順応により静脈栄養からの離脱が可能場合もあるが、重症例の多くは静脈栄養からの離脱は困難で、長期あるいは生涯にわたる静脈栄養管理が必要である(不可逆的腸管不全)。栄養管理の進歩により、このような不可逆的腸管不全症例に対して長期の安定した静脈栄養管理も可能になりつつあるが、多くの場合、数ヶ月から十年以上の経過を経て、静脈栄養あるいは腸管不全そのものに関連した合併症(肝機能障害、カテーテル関連血流感染症、中心静脈ルートアクセス困難、代謝異常など)により、静脈栄養の維持、すなわち生命の維持が困難な状況、あるいは極めて生活の質の低い状況に陥る。小腸移植はこのような重症不可逆的腸管不全に対する根本的な治療法として期待されている。</p> <p>日本国内において現在のところ小腸移植は健康保険適応がなく、先進医療(暫定A)あるいは自費診療として実施されており、患者、施設の負担が大きく広く普及はしていない(年間0~4例程度)が、潜在的な小腸移植適応は国内にも多く存在すると考えられている。小腸移植の適応となる重症不可逆的腸管不全の症例数は正確には把握されていないが、年間数十例程度と推測される(厚生労働省難治性疾患等克服研究事業:「腸管不全に対する小腸移植技術の確立に関する研究」(研究代表者:福澤 正洋))。現在の先進医療(暫定A)では、施設の要件として、生体ドナーからの小腸移植/脳死ドナーからの小腸移植、それぞれについて2例以上の経験が条件とされており、東北大学(脳死/生体)、京都大学(脳死のみ)の2施設でしか承認されておらず、また平成28年4月からは先進医療暫定Aでの新規患者組み入れはできなくなっている。</p> <p>先進医療(暫定A)では、生体ドナーからの小腸移植/脳死ドナーからの小腸移植、それぞれ別の医療技術として扱われている。</p> <p>小腸移植実施施設の連携のもと先進医療Bへの申請を目指していたが、移植手術に係る費用と保険適応外の免疫抑制剤、検査費用が患者負担となり先進医療暫定Aとして実施していた施設では患者負担がより大きくなること、保険適応に至る研究期間は長期にわたり、研究実施体制の整備には多大な施設への負担がかかることなどから、先進医療Bではなく、一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合からの要望を経て、小腸移植の保険適応を目指したいと考えている。</p>	0件	0件

※暫定的に先進医療Aとして実施する技術。

1年間(平成27年7月1日～平成28年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術(先進医療B)に係る医療機関の今後の対応方針等

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 昨年度の実績 (実施可能であるすべての 医療機関の実績)	(参考) 直近5年間又は承認後の実績 (実施可能であるすべての医療機 関の実績)
4	十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテラーメイドのがんワクチン療法(ホルモン不応性再燃前立腺がん)	久留米大学病院	登録基準に該当する症例がなかったため。	関連病院を含め、周知を図りながら、現行の試験計画を継続。	4件	46件
9	急性心筋梗塞に対するエボエチンペプチド療法	大阪大学医学部附属病院	2015年2月に中間解析の目標数を達成し登録を中断した。中間解析を施行し、2016年3月8日に独立効果安全性委員会より無効中止の勧告を受け、研究代表者は試験中止を決定した。以上の理由から、1年間の実施件数は0件となった。	2016年8月をもって、先進医療Bの取り下げ申請を行った。	45件	195件
10	培養骨髄細胞移植による骨延長術	名古屋大学医学部附属病院	症例登録が終了したため。		3件	17件
38	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法(切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん)	静岡県立静岡がんセンター	登録基準に該当する症例がなかったため。	参加施設とJCOGのホームページによる情報提供、関連の学会と患者団体への情報提供、近隣医療機関からの紹介の働きかけなど、引き続き患者登録に努める。	- (H26.12.1(告示))	0件 (H26.12.1(告示))
42	ステロイドパルス療法及びリツキシマブ静脈内投与療法(特発性ネフローゼ症候群)	国立成育医療研究センター	登録基準に該当する症例がなかったため。	現行の試験計画を継続。	- (H27.4.1(告示))	0件 (H27.4.1(告示))
46	LDLアフェレシス療法(閉塞性動脈硬化症)	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	2015年11月の承認以降、直ちに開始できるように関連部署等と準備を進める中で、処理血液量、治療時間の変更、検査スケジュール等の見直しが必要となった。これらの変更手続きが完了した2016年4月14日以降、改訂後の実施計画書で試験を実施し、患者のスクリーニングを開始した。	他院から紹介してもらうよう、近隣医療機関へ連絡をし、現行の試験計画を継続。先行研究では、2年間で20症例を集めており、残る4年間で35症例を集めることは充分可能と考えている。	- (H27.11.1(告示))	0件 (H27.11.1(告示))
48	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法	名古屋大学医学部附属病院	先進医療の告示後、実験計画書等の修正が必要となり、先進医療の変更届出を行ったため(2016年4月1日)、手続きに時間を要し、患者登録が進まなかった。	被験者リクルートのためのポスターを作成し、掲示している。現行の試験計画を継続。	- (H28.1.1(告示))	0件 (H28.1.1(告示))
49	テモゾロミド用量強化療法	杏林大学医学部附属病院	先進医療会議承認後、試験実施計画の変更手続きおよび薬剤提供をうけるための製薬企業との契約手続きに時間を要したため。	協力医療機関追加を検討する。	- (H28.4.1(告示))	0件 (H28.4.1(告示))
55	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術	東京医科大学病院	先進医療会議にて承認後、症例報告書の検査内容について見直しが必要となり、それに伴い医学倫理委員会への変更申請を行っていたため。	今後は地域の様々な医療機関とさらに積極的に連携・協力していく。	- (H28.4.1(告示))	0件 (H28.4.1(告示))
57	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療(胸髄損傷)	大阪大学医学部附属病院	先進医療承認日が平成28年4月1日であり、告示から3ヶ月しかなかったため。	現行の試験計画を継続。	- (H28.4.1(告示))	0件 (H28.4.1(告示))
58	陽子線治療(肝細胞がん)	北海道大学病院	先進医療承認日が平成28年4月1日であり、告示から1ヶ月しかなかったため。	協力医療機関の追加を検討する。	- (H28.6.1(告示))	0件 (H28.6.1(告示))
59	重粒子線治療(肝細胞がん)	群馬大学医学部附属病院	先進医療承認日が平成28年6月1日であり、告示から1ヶ月しかなかったため。	現行の試験計画を継続。	- (H28.6.1(告示))	0件 (H28.6.1(告示))
60	アキシチニブ単剤投与療法(胆道がん)	杏林大学医学部附属病院	先進医療承認日が平成28年6月1日であり、告示から1ヶ月しかなかったため。	現行の試験計画を継続。	- (H28.6.1(告示))	0件 (H28.6.1(告示))